

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年5月18日 NO.19 (219)



花ちゃん 「あれあれ？これは何ですか。」

オー君 「これは、ひょっとしてコウモリですか。」

モンタ博士「そのとおり。コウモリです。」

花ちゃん 「え！コウモリというと、血をすってしまう『吸血鬼ドラキュラ』を思いうかべてしまいますが…。それから、バットマンというのもしましたね。」

モンタ博士「だいじょうぶだよ。花ちゃん。実際に血をすうコウモリはとても珍しくて、日本にはいないんだよ。」

花ちゃん 「でも、このコウモリはどうしたのですか。」

モンタ博士「国立七小の子が持ってきてくれたのさ。毎朝、校門に立っていると、いろいろ

ろな^こ子がいろいろなもの^もを持ってきてくれるんだ。」

オー君 「そうですね。きれいな植物^{しょくぶつ}の実^みを見せてくれたり、キノコ^もを持ってきたり・・・。」

花ちゃん 「女王アリ^{じょうおう}をつかまえてきたり、ある時^{とき}は、ヘビ^もを持ってきた子^こもいましたね。

ところで、コウモリってどこにでもいるのですか。」

モンタ博士 「コウモリは夕方^{ゆうがた}になると、学校^{がっこう}の近く^{ちか}でもよく見^みられるんだよ。」

オー君 「そうだよ。チョウチョのようにフラフラと飛^とぶ生き物^{いもの}がいたら、そいつは、たぶんコウモリさ。」

花ちゃん 「コウモリって、ちょっとかわった生き物^{いもの}ですね。」

モンタ博士 「そうだね。鳥^{とり}でもなく昆虫^{こんちゅう}でもなく、コウモリは哺乳類^{ほにゅうるい}なんだけど、特殊^{とくしゅ}な生き物^{いもの}だね。」

オー君 「飛^とぶための羽^{はね}は、ひふが変化^{へんか}したものだといわれているんだ。」

モンタ博士 「前足^{まえあし}、特に人間^{にんげん}でいう手^てのひらがとても発達^{はつたつ}しているんだよ。そして、その反面^{はんめん}、後ろ足^{うしろあし}は立つ^たことをするよりも、木の枝^きなどにぶら下^さがり、逆さま^{さか}状態^{じょうたい}で休^{やす}んだり、ねたりするかわったやつなのさ。」

オー君 「鳥^{とり}や昆虫^{こんちゅう}以外^{いがい}で空^{そら}を自由^{じゆう}に飛^とべる生き物^{いもの}は、コウモリだけなんだ。」

花ちゃん 「ムササビも空^{そら}を飛^とべるんじゃないかな。」

オー君 「ムササビやモモンガなどは飛^とぶというよりも、滑空^{かっくう}するというんだ。」

花ちゃん 「ふーん。コウモリって、なその多い^{おおい}生き物^{いもの}なんですね。」

オー君 「それから、コウモリって夜行性^{やこうせい}なんだよ。」

モンタ博士 「それで、コウモリは視覚^{しかく}よりも超音波^{ちょうおんぱ}を使^{つか}って空間^{くうかん}を認識^{にんしき}したり、仲間^{なかま}とのコミュニケーションを取^とったりしているそうなんだよ。」

花ちゃん 「超音波^{ちょうおんぱ}ですか。ますます謎^{なぞ}だらけの生き物^{いもの}ですね。」

モンタ博士 「なお、コウモリのエサは、昆虫^{こんちゅう}や果実^{かじつ}などで、農家^{のうか}の人^{ひと}などにとっては害獣^{がいじゅう}として見^みられていますが、直接^{ちよくせつ}人間^{にんげん}に危害^{きがい}をあた^{あた}える生き物^{いもの}ではないから、安心^{あんしん}してもいいよ。それから、いろいろな生き物^{いもの}がいるけど、鳥^{とり}の仲間^{なかま}やけものなど、もし見^みつけても、直接^{ちよくせつ}手でさわることのないように注意^{ちゅうい}しましょう。」